

令和5年7月15日(土)

信濃教育会 研究発表会 中南信 A (塩尻市立広丘小学校)

佐伯胖所長 開会の挨拶

おはようございます。本日は第76期の研究員の第1回目の研究発表会です。会場を提供していただきました塩尻市立広丘小学校の先生方には心から御礼申し上げます。

開会に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。先日、研究所のテーマ研という、研究員が自分の実践についての報告をレポートにまとめてそれを巡ってみんなで討論するということがありました。そこで、ある研究員の報告で、小学校1年生にひらがなの学習を進めて、一通りひらがなが書けるようになったので、何らかの文章を書けるように、興味を持ってもらおうと思って、「春探し」をしたのですね。そして、何か春らしいものを見つけたら、それを絵に描いて、短い文を添えるということを課題にいたしました。そうしたら、K・I児という子どもがタンポポの絵を描いて、「たんぽぽはいつになくなるのかな」と書いたそうなんですね。その「いつに」っていう「に」が、おかしいっていう、変だという子もいましたけれども、他の子は、「いや、その子らしくていいんじゃないの」という意見もあって、どうしたものかなと思ったけれども、一応そのままにしていたら、その本人が非常に嬉しそうだったという、そういう実践の報告がありました。

その時私は思い出したことがあるんですね。それは、大沢敏郎さんという方の書いた、『生きなおす、ことば』という本なんです。この「生きなおす」の後、点がついてますね。これは、文法的に言うとなんか変ですよ。だけど、その語り手の大沢敏郎さんが「生きなおす」とひとこと言って、一旦そこでじっと「生きなおすこと」を味わって、そしてそれが「ことば」になるんだという、そういう息遣いを表題にしているんですね。大沢敏郎さんは、横浜の寿町という、簡易宿泊所に日雇い労務者の方が多く住んでおられる、いわゆる「ドヤ街」で教室を開いていました。そこには仮名も読めない、書けない、もちろん文章も書けない、読めない、小学校は2、3日行っただけだという、そういう人たちもいるわけですね。そこで、大沢さんは字を「あいうえお」から教えて、文章を書くという、そういう教室を開いていたんですね。その本の1つのエピソードですが、梅沢さんという人の話があります。梅沢さんは、小学校はほぼ出ているかなんかで、一応平仮名はなんとか書ける。ただ、文章はほとんど書けないという、そういう梅沢さんに、なんとか文章が書けるようになっていただきたいので、短い文から練習してある程度書けるようになったので、「何でもいから、あなたのお母さんのことについて書いてください」と、そういう風に頼んだそうです。お母さんについてなら、梅沢さんならB4、2〜3枚で書いてくるかなと思ったら、1週間かかって、B4の紙に20枚書いてきたんですね。すごい、もう思い出がいっぱい込められていて、すごい長い文を書いていたのですが、

その中に、こういう文章があったんです。お母さんの、臨終の場面。「眠るように息を引き取りました。おかさんと、大きな声で、思いっきり泣きました。」と、書いていたんですね。で、大沢さんは、「おかさん」っていうのは、「おかあさん」と、直させた方がいいかなとも思ったんですけども、一応そのままにして、本人に、その文を、みんなの前で朗読してもらおうという風にしました。そしたらですね、長い文をゆっくり読み始めました。なにせ 20 枚ですから、非常に長い文章を、ぽつぽつと、ゆっくり読んで行っただけですが、最後の、「眠るように息を引き取りました。おかさんと、大きな声で思いっきり泣きました。」というその一節に差しかけた時、その梅沢さんは、大きく息を吸い込むと、机から身を乗り出して、「おっかさあ〜ん！」と長い余韻を残して叫んだんですね。しーんと教室は静まり返って、みんながそれをじっと聴き入り、囁みしめていました。

その時大沢さんは、「おかさん」を「」おかあさんとか、「おっかさん」とか書き直すのは学校教育だ。でもそれは、その人の生き様を踏みにじることになる。自分はそれを直さなくて良かった。その時に大沢さんは「ああ、これで俺の受けた学校教育は終わったな」と思ったというんですね。私は、これはすごい言葉だと思うんです。

で、先ほどのこのタンポポのところに行きますと、「たんぽぽはいつになくなるのかな」という文を、その時の子どもの思いになってみると、タンポポ、今とても綺麗だけど、いつかなくなってしまう、なくなってしまう、それはいつなんだろうなっていうね。春になったら、いや、夏になったらもう見えないのかなとか、いろんな思いを込めて「いつになくなるのかな」って書いたその思いですね。こう考えると、やっぱり私たちは、正解、不正解、どう書くべきか、というような思いで子どもの言葉を見るんじゃないで、そういう評価のまなざしをひかえて、その時の子どもの思いに心を寄せるということが、本当に大事なことだということを、教わるわけです。

今日の発表の中でも、子どもの正しいか正しくないかとか、どう書くべきかという評価する思いを一旦ちょっと差し置いて、その時の子どもの思いに心を寄せるという、そういう実践も見られるんじゃないかと思います。今日は、研究発表、どうぞ皆さん楽しんで、じっくり味わって聞いていただきたいと思います。よろしくお願いします。